

バロック劇団オグマ

2026年5月16日(土)17時～19時

(開場16時半)

早稲田大学 小野記念講堂(早稲田キャンパス 27号館 地下2階)



『バロック・ファンタジア：タバランとアポロン』

— 17世紀前半のフランスにおける演技 —

出演者：マクシム・アルダン & シャルル・ディ・メリヨ
テオルボ奏者：佐藤亜紀子

EIKOS 17世紀仏演劇研究会 & 早稲田大学文学部フランス語フランス文学コース 共催

お問い合わせ：salut@list.waseda.jp (早稲田大学文学部フランス語フランス文学コース)
アクセス：<https://www.waseda.jp/flas/rilas/assets/uploads/2024/05/07rijichomap.pdf>

2006年に設立された劇団オグマは、2015年より「ペリゴール・オグマック」フェスティバルを主催し、公演はフランス各地で行われている。オグマは次のように自らを語る。「テキストの修辞、その音楽性、そして動きこそが、私たちのスペクタクルの骨格を成しています。そう、私たちが標榜するのは『言葉の演劇』です。しかし、だからといって私たちのスペクタクルが視覚的な深みを持たないわけではなく、しばしば俳優たちには非常に身体的な表現が求められます。(…)私たちは、通常は上演されないような、地方に根ざした上質な大衆演劇のために活動しているのです。」

そのレパートリーは15世紀から17世紀におよび、悲劇からビュルレスク(滑稽劇)まで多岐にわたる：

Léandre et Héro de Paul Scarron (2015) ; *Les Plaideurs* de Jean Racine (2016) ; *Cléopâtre captive* d'Etienne Jodelle (2018*¹) ; *Bérénice* de Jean Racine (2019, 2023 et 2025*²) ; *Le Virgile (travesti)* de Paul Scarron (2019) ; *Un Vent de Fronde, autour des Mazarinades* (2021) ; *Le Paris burlesque* de Bertaut et Colletet (2023) ; *Apollon et Daphné, comédie en musique écrite et composée par Charles Dassoucy [1605-1677]* (2024*³) .

*¹ 1553年以来初の上演 *² 2019年、2023年はアカデミー・フランセーズ後援による *³ 世界初上演

創設者にして芸術監督のシャルル・ディ・メリヨ (Charles Di Meglio) は、ウジェーヌ・グリーン (Eugène Green) に師事した。現在は、演出・振付アシスタントとしてカナダの劇団「オペラ・アトリエ」と定期的に協働している。彼はまた、ルネサンスの歌唱とリュート演奏にも通じている。さらに、モリエール生誕400周年の折にはフランス学士院のイベント「ニュー・ブランシュ2022」で演出を担当し、レ・ザリウムール・ド・レヴェルペール劇団 (Les Allumeurs de Réverbères) とのコラボレーションでモリエール『女学者』を制作した他、6つのオペラ*⁴を手がけてきた。2026年には、2つのオペラ*⁵に取り組む。

*⁴ *La Susanna* de Stradella (2021), *Actéon* de Charpentier (2022) : le Gala des Amis de l'Opéra Royal (2023) ; *Didon et Enée* de Purcell dans la Galerie des glaces du Château de Versailles et à l'Institut de France (2024) ; *Britannico* de Graun pour le festival de Sarrebourg et *Actéon* pour l'Opéra royal de Versailles (2025)

*⁵ *La Chasse du Cerf* de Morin et *Le Cinesi* de Gluck, au petit théâtre de Marie-Antoinette à Versailles et au château de Ludwigsburg en Allemagne

俳優のマクシム・アルダン (Maxime ARDANT) は、パリ第3大学(ソルボンヌ・ヌーヴェル)でシャルル・ディ・メリヨによるバロック演劇の研修を受けた後、劇団に加入した。現在は同大学で演劇・文学の学位取得を目指して学業を続けている他、パリ市の区立音楽院でも学んでいる。最近では、自身が脚本も手がけた初のスペクタクル『レア』*Léa* の監督を務め、映画作品(テレビ、シネマ)への出演と劇作品の制作を両立させている。

テオルボ奏者：佐藤亜紀子 (SATO Akiko)

東京芸術大学音楽学部楽理科卒。ドイツケルン音楽大学及びスイスのバーゼル・スコラ・カントールムでリュートを学ぶ。リュートやテオルボなどの歴史的撥弦楽器を専門に演奏。(公式サイト:www.atelierlakko.com)

字幕翻訳：17世紀仏演劇研究会 EIKOS メンバー

2022年に創立50周年をむかえた17世紀仏演劇研究会。「エイコス」はギリシア語で「真実らしさ」を意味を意味し、研究誌「エイコス」を不定期に出版する他、2011年に『フランス17世紀演劇事典』(中央公論新社)を刊行。現在は25名の会員を擁し、月に一度の定例会にて、17世紀フランスの戯曲の訳読・研究をおこなっている。公式サイト (eikos.ltt.jp) にて全論文データを公開。

- 塩谷優衣 (SHIOTANI Yui)・・・明治大学他非常勤講師(フランス語)。専門は田園劇を中心とする17世紀演劇。
- 鈴木彩絵 (SUZUKI Ayae)・・・大東文化大学非常勤講師(フランス語)。専門はラシーヌを中心とする17世紀古典悲劇。
- 高安理保 (TAKAYASU Riho)・・・早稲田大学文化構想学部助教。専門は音楽家リュリのオペラの台本作家としても知られる劇作家フィリップ・キノー。

タバラン：しかめっ面でヘリクツ屋、おどけた名コンビ

できたばかりのパリのドフィーヌ広場に大道芸人が陣取った。薬売りのモンドール氏とその召使いのタバランだ。音楽家が衆目を集め、召使いのひょうきんな話術で商品を売りさばく。痛烈でナンセンスなユーモアにあふれたその調子は狂言の召使いなどを思い起こさせるか、はたまたモンティ・パイソンを予感させるものだった。中世とモリエールを橋渡しするタバランは、毎週金曜夜にファルス(笑劇)を上演する特別な許可も得ていた。何度も宮廷に招かれた一座は、ルイ13世をあまりに大笑いさせたものだから、宮廷人たちは皆、タバランのおふざけのおかげで気の塞ぎがちな王がまるで別人のようだといって喜んだものだった。モリエールはこのおもしろコンビを舞台で見たことこそなかったが(1624年、モリエールが2歳の頃に彼らは劇団を退いたのだから)、戯曲は印刷されて広く出回っていたため、タバランらが生み出したお決まりの型、つまり主人と気心の知れたおどけた召使いとその粗相を許してやる主人というのは知っていた。そういうわけでスガナレルヤソジーにはタバランの面影があり、ああ言えばこう言う議論好きな性格が見出せるのだ。陽気でおどけた我々のスペクタクルは、縁日を彩る喜びとユーモアにあふれ、ドフィーヌ広場の名物コンビを祝福する。さあ、昔日のパリへタイムスリップ。松明の薄灯かりの下、露店の見世物に人々が集い、持てる者も持たざる者も気兼ねなく入り乱れ、屈託のない笑い声を響かせていた、あの時代のポン・ヌフへの旅へ!

(劇団オグマ公式サイト内『タバランのファンテジー』特設ページより: <https://www.compagnieoghma.com/tabarin>)